④

②

①

⑤

③

核兵器廃絶の願い世界へ

市民や国内外の非政府組織（NGO）関係者などが、核兵器廃絶に向けて話し合う国際会議「核兵器廃絶ー地球市民集会ナガサキ」が11月2日から4日に、原爆資料館などで開催されました。3日間で4つの分科会と全体会議が行われ、延べ3,280人が活発な議論を交わしました。

さまざまな思いを集会・分科会で発表

開会集会では、被爆者の池田早苗（さなえ）さんが「あの日」を証言。きょうだいが次々に死んでいったことにふれ、「長崎を最後の被爆地に」と怒りを込めました（①）。

2日目の分科会では、韓国・アメリカ・ニュージーランド・オーストラリア・日本のNGOリーダーなどが専門的な知見から、非核兵器地帯や核兵器禁止の法的な枠組みなどについて議論（④⑤）。また、「フクシマからナガサキを考える」分科会では、福島県浪江町から南相馬市へ避難している、高校3年生の吉田有沙（ありさ）さんがパネリストとして出席。放射能被害についてふれ、「未来に不安を抱える人をこれ以上増やさないで」と語りました（②）。

若者が中心の分科会も注目を集めました。「被爆70年と、核不拡散条約（NPT）再検討会議の年である2015年に向け何ができるか」をテーマに集団討論が行われ、「被爆者の生の声を聞ける最後の時。しっかりと継承する姿勢を持とう」「全国に長崎の平和教育を出前講座しては」など、若者らしい活発な意見が出されました（③）。

長崎アピールを採択

最終日の閉会集会では、核兵器の非合法化や非核兵器地帯の設立に加え、日本政府へ『核の傘』からの脱却などを訴える「長崎アピール2013」が採択されました。そしてこのアピール文は、核保有国を含む153カ国の駐日大使館や国連、日本政府などに送付されました。

核兵器廃絶の願いを世界へ

国際社会で核兵器の非人道性の世論が高まりを見せつつある中で行われた今回の「地球市民集会」。この集会は、市民の声、次世代の力は世界を変える可能性を秘めていることを改めて教えてくれました。あなたも「私だからできること」を考えてみませんか。そして一丸となって、被爆地長崎から核兵器廃絶の願いを世界へ発信しましょう!!